スポーツ時におけるブラジャーの着用感について

千葉 桂子 (福島大学 教育学部)

The Wearing Comfort of Brassieres during Sports Exercise
Keiko Chiba (Faculty of Education, Fukushima Univ.)

1. はじめに

女性がスポーツを快適に行うためには、バストの揺れを防止することが重要であると言われている。¹⁾そのためには、動作適合性や安定性の機能を備えたブラジャーを着用することが有効と考えられるが、最近ではバストのシェーブアップおよびボリュームアップなどの整容機能が付与された製品が市場に多数出回っている。女性の関心やニーズもそのような製品に集中し、基本的な機能性に対する必要意識が低くなっているのではないだろうか。本研究では、スポーツ時におけるブラジャーの着用感についてアンケート調査を行い、使用の実態を明らかにすることを目的とした。また、動作時におけるブラジャーの着用感について検討した。

2. 研究方法

2-1. スポーツ時におけるブラジャーの着用状況に関する調査

調査対象者は、福島県内に在住しており、部活動・サークル活動等で、日常的にスポーツを行っている、15～25歳の女性であった。調査時期は1997年9～10月であり、調査は留め置き調査法および一部については郵便調査法により行った。

調査内容は、個人の属性、基本身体寸法、競技種目、スポーツ経験年数、スポーツ時に着用するブラジャーの種類、着用感およびサイズ表示の認識度等に関するものであった。なお、結果については、回答項目別、競技種目別に単純集計およびクロス集計を行った。

2-2. 上肢動作に伴う肩ひものずれについて

前述の調査により、競技種目の違いに関わらず「肩ひものずれ」を感じるという不満が

高い指摘率を示した。この結果を受けて、3人の標準的な体格の若年女子3名を被験者として、被験者本人が日常的に着用しているものの1種類とスポーツブラジャー5種類、計6種類をサンプルとして着用させ、両上肢180°前挙動作を5回繰り返し行わせた際の肩ひものずれの状態をデジタルカメラで撮影し視覚的に捉え、さらに被験者の着用感について、チェックリストを設けて回答させた。

3. 結果および考察

3-1. ブラジャーの使用状況について

回答者は150名で、平均年齢は17.5歳、競技種目の平均経験年数は4.7年であった。平均して週に5.4日、1日あたり2.4時間そのスポーツを実施している。回答者の種目別内訳は、バレーボール23.3%、陸上18.0%、ハンドボール13.3%、テニス10.0%、バスケットボール7.3%、剣道6.7%、その他(バドミントン、スキー、体操など)21.4%であった。

スポーツ時において、スポーツ用ブラジャーか一般的なブラジャーのどちらを着用しているかという質問に対しては、全体の94.0%が、「いつも一般的なもの」と回答していた。唯一、陸上においては「いつもスポーツ用」という回答がみられ、「時々スポーツ用」を合わせると18.5%の回答が得られた。これらのことから、予想外にスポーツ用ブラジャーが着用されていないことが明らかになった。

図1に、いつも一般的なものを着用すると回答した者に対して着用感について質問した結果を、種目別に示す。全体において最も多かったのが「肩ひものずれ」(65.2%)で、次が「アンダーバスト(以下、UB)部のずれ」(27.0%)であり、この傾向はほとんどの種目で

図1. ブラジャーの着用感(一般的なタイプ)

図2. サイズ認識の違いによる着用感の指摘率(%)

●—サイズ認識 ○—サイズ非認識

同様に認められた。また「快適」に「No」と回答した者 115名中91名が「肩ひものずれ」を指摘した。この回答者の指摘した項目を詳細にみると、「カップのずれ」、「UB部のずれ」および「ホックのはずれ」なども指摘されており、複合的な不快感を感じていることがわかった。自由筆記の回答より、肩ひもがずれるときの動作については、種目の違いに関わらず、上肢の上下運動に関わるものが多く指摘されていた。また「剣道」については、「ホックのはずれ」も「肩ひものずれ」に次いで顕著に高い指摘率が認められた。

3-2. サイズの適合性と着用感の関連性

回答者に自分のバストとUBの寸法およびブラジャーのカップサイズについて質問したところ、すべてについて回答した者は、全体の65.3%(98名)であり、その中で正確に自分のブラジャーサイズを認識できていた者は47名で、全体の約3割に過ぎなかった。その中の83.0%(39名)は、各自が購入する際に選択するサイズと一致していた。正しくサイズを認識できていた者とできていなかった者をグループ핑して、着用感の違いについて捉えた結果を図2に示す。「快適」については認識グループの約3割が肯定していた。また「肩ひものずれ」については、非認識グループの

約8割が指摘しており、認識グループを大きく上回っていた。自分のサイズを知り、購入の際に適正なサイズを選択できるようになることにより、不快感が減少される可能性を推測することができた。

図2. サイズ認識の違いによる着用感の指摘率(%)

●—サイズ認識 ○—サイズ非認識

3-3. 上肢上挙動作に伴う肩ひものずれ

アンケートの結果より「肩ひものずれ」に関する不快感が高いことがわかったので、両上肢180°上挙動作の前後における肩ひもの位置の移動について視覚的に捉えた。また被験者には、動作前の着用感と動作後の肩ひもおよびUB部のずれに関する感覚について質問した。表1に写真上の肩ひものずれの有無と被験者のずれの感覚の有無について示す。(表の○印は、有を示す)

表1. 肩ひものずれの有無

被験者 サンプルNo.		A	B	C
1	写真上	○		
	感覚		○	
2	写真上		○	○
	感覚		○	
3	写真上	○	○	○
	感覚	○	○	○
4	写真上		○	○
	感覚	○		
5	写真上		○	
	感覚			○
6	写真上		○	○
	感覚			○

サンプル No. 1: 日常的に着用しているもの
2~6: スポーツブラジャー

個人差はあるものの、視覚的には「ずれ」が認められていても、被験者本人は、ずれたと感じない場合もあることがわかった。

参考文献

1) 樋口ゆき子, 中村邦子: スポーツブラジャーの運動機能性, デサントスポーツ科学, 7, 1986.